



日本金銭機械株式会社 (証券コード:6418)

2019年3月期 第2四半期決算資料



世界最大のゲーミングショー
‘G2E 2018’に出展
(10月9～11日, ラスベガス)



金融国際情報技術展
‘FIT2018’に出展
(10月25,26日, 東京フォーラム)

2018年11月

・2019年3月期 第2四半期累計業績概要	.. 2~5
・セグメント別 業績概要	.. 6~11
・2019年3月期 通期業績予想 、 セグメント別の取り組みと進捗について	..12~17
・業績推移・中期計画&長期ビジョン	..18
・グローバル生産戦略	..19,20
・利益還元	..21
・参考資料	..22~38

- ・2019年3月期 上半期の実績
- ・2019年3月期 通期予想

の2点を中心に、ご説明いたします。

2019年3月期 第2四半期累計業績概要

ポイント

◎ 前年同期間比 '増収・増益'

- ・増収…遊技場向機器市場では、遊技機の規制強化を受けて、顧客であるパチンコホールの設備投資に対する慎重な姿勢が継続しましたが、ゲーミング市場においては、北米地域での新規案件と既設カジノホールのリニューアル工事を中心とした需要により、好調に推移いたしました。
- ・増益…増収要因に加えて、外貨建資産に係る為替時価換算差益の計上などにより、大幅な増益となりました。

2019年3月期の上半期の損益の概要としては、売上高は、遊技場向機器市場においては遊技機の規制強化の影響を受けて、顧客であるパチンコホールの設備投資に対する慎重な姿勢が継続しましたが、ゲーミング市場において、北米地域での新規案件と既設カジノホールのリニューアル工事を中心とした需要により、好調に推移いたしました。

利益面では、遊技場向機器セグメントにおいて、財務健全化を目的とした棚卸資産の一部について、評価額の切り下げを実施したこともあり、営業利益は微増にとどまりましたが、外貨建資産に係る為替時価換算差益を3億86百万円計上したことなどにより、大幅な増益となりました。

2019年3月期 第2四半期累計業績概要

単位:百万円



	2018/3		2019/3		2019/3		2Q累計計画比	
	2Q累計実績		2Q累計実績		2Q累計計画		率	
			率	増減額		率	増減額	
売上高	14,995	15,585	+ 3.9%	+ 590	14,500	+ 7.5%	+ 1,085	
グローバルゲーミング	7,760	8,953	+15.4%	+1,192	7,550	+18.6%	+1,403	
(内数) プリンター事業	(1,989)	(2,427)	(+22.0%)	(+438)	(1,800)	(+34.8%)	(+627)	
海外コマース	2,074	1,943	△ 6.3%	△ 131	2,580	△24.7%	△637	
(内数) プリンター事業	(101)	(26)	(△73.4%)	(△ 75)	(70)	(△63.1%)	(△ 44)	
国内コマース	1,129	1,341	+18.8%	+211	1,070	+25.3%	+271	
遊技場向機器	4,031	3,348	△16.9%	△683	3,300	+ 1.5%	+ 48	
営業利益	6.4%	6.4%		±0.0pt	4.8%		+1.6pt	
	963	996	+ 3.4%	+ 32	700	+42.4%	+ 296	
営業外損益	100	454		+353	100		+354	
為替差損益	+ 96	386		+290	75		+311	
経常利益	7.1%	9.3%		+2.2pt	5.5%		+3.8pt	
	1,064	1,450	+36.3%	+386	800	+81.3%	+650	
四半期純利益	3.0%	6.7%		+3.7pt	3.4%		+3.3pt	
	453	1,047	+130.8%	+593	500	+109.4%	+547	
平均為替レート	米ドル	112.13円	108.52円	△ 3.61円	107.00円		+ 1.52円	
	ユーロ	122.25円	130.70円	+ 8.45円	132.00円		△ 1.30円	
決算期末日レート (米ドル)								
前期決算期末	112.18円	106.31円			106.31円			
	↓ + 0.56	↓ + 7.29			↓ + 3.69			
2Q決算期末	112.74円	113.60円			110.00円			

2019年3月期 2Q累計実績

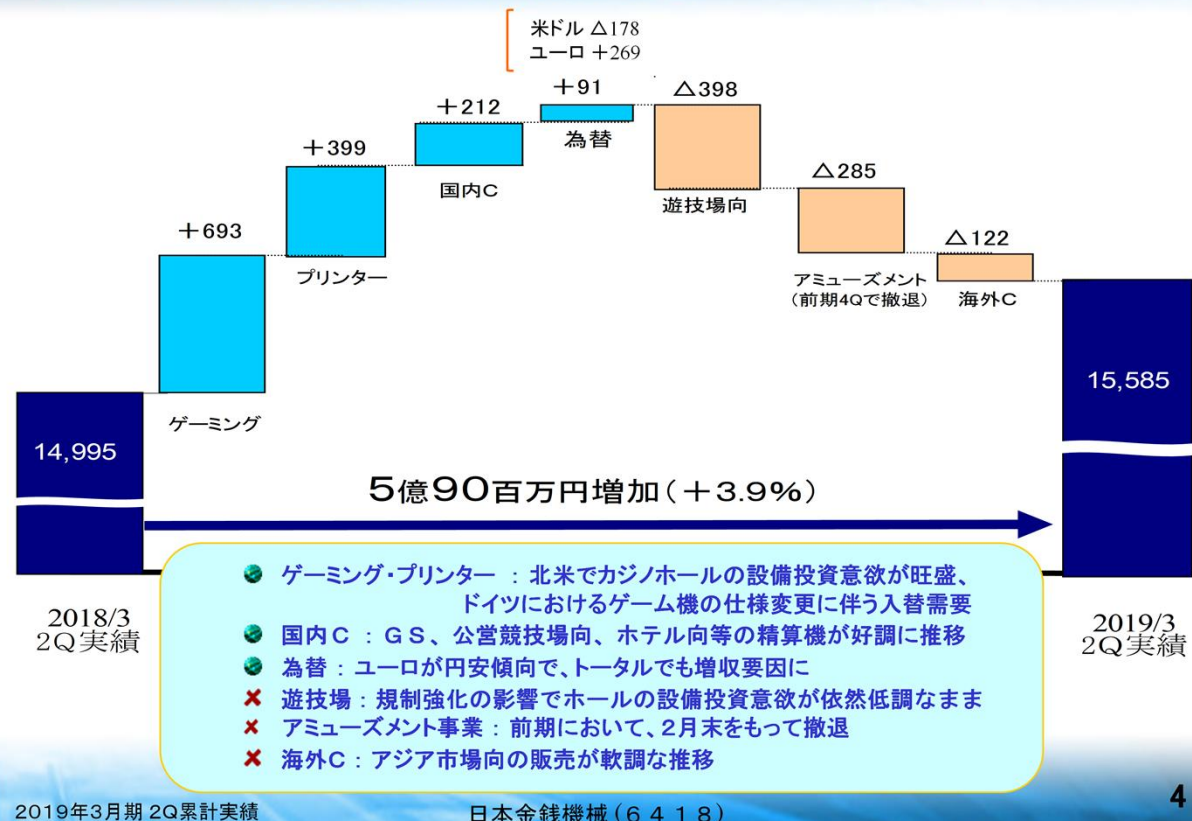
日本金銭機械 (6 4 1 8)

3

2019年3月期の上半期の業績は、売上高は、前年同期間比3.9%増、5億90百万円増収の155億85百万円となりました。

営業利益は棚卸資産の評価額の切り下げの影響もあり、前年同期間比3.4%増、32百万円増益の9億96百万円にとどまりましたが、経常利益は外貨建資産に係る為替差益の計上により、前年同期間比36.3%増、3億86百万円増益の14億50百万円、四半期純利益も前年同期間比5億93百万円増益の10億47百万円となりました。

売上高増減要因（前年同期間比）

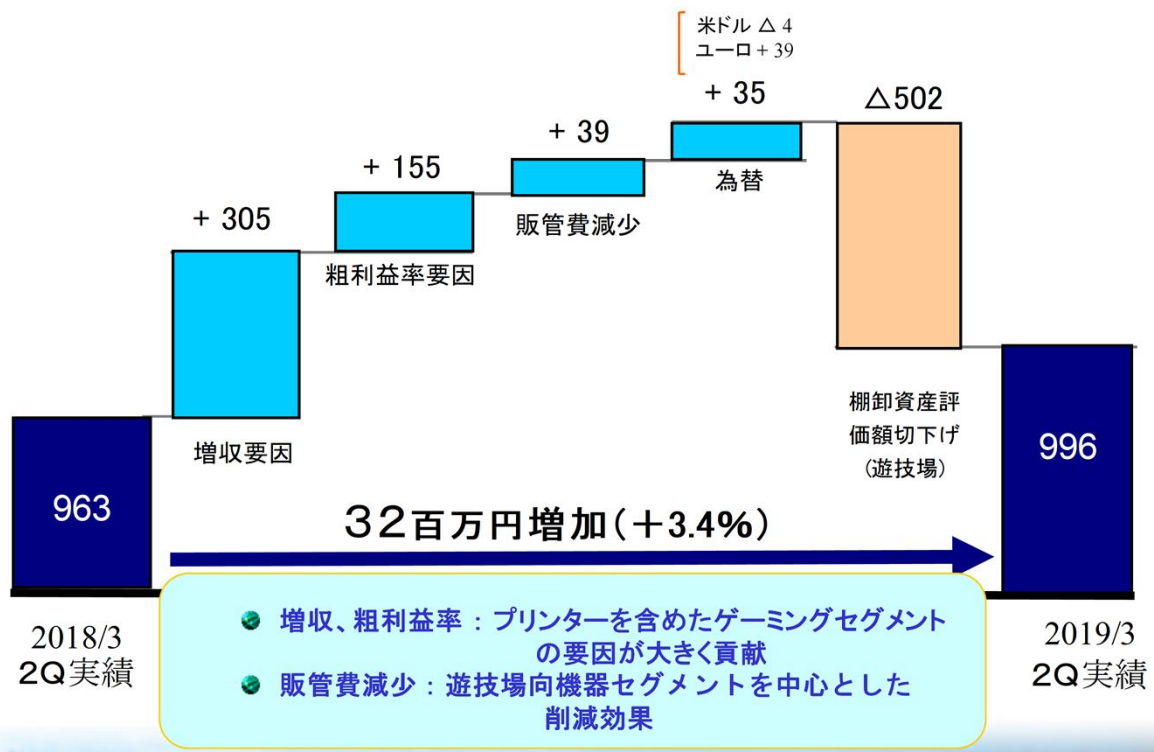


前年同期間比での売上高の主な増減要因を示しております。

遊技場向機器セグメントでは市場環境の影響を受けて低調な推移となりました。一方、プリンターを含めた「グローバルゲーミング」セグメントと「国内コマーシャル」セグメントは好調に推移し、またユーロが円安傾向で推移したことも増収要因となりました。

営業利益増減要因（前年同期間比）

単位：百万円



2019年3月期 2Q累計実績

日本金銭機械 (6 4 1 8)

5

前年同期間比での営業利益の主な増減要因を示しております。

「グローバルゲーミング」セグメントでの増収と収益性のアップ、販管費の減少などが増益要因となりました。

一方で、「遊技場向機器」セグメントにおいては、当該市場における販売価格の低下が進む状況を勘案し、財務の健全化を目的として、棚卸資産の一部について評価額の切り下げを行ったこともあり、32百万円の微増にとどまりました。

2019年3月期 2Q累計セグメント別業績



単位:百万円

		売上高			営業利益(率)		
		2018/3 2Q累計実績	2019/3 2Q累計実績	2019/3 2Q累計計画	2018/3 2Q累計実績	2019/3 2Q累計実績	2019/3 2Q累計計画
グローバル	外貨(千米ドル)	39,610	51,976	20,965	19.0%	23.6%	17.2%
	外貨(千ユーロ)	27,154	25,345	10,995			
ゲーミング	邦貨(百万円)	7,760	8,953	7,550	1,477	2,114	1,300
海外	外貨(千米ドル)	7,257	5,755	2,980	14.9%	3.3%	19.4%
	外貨(千ユーロ)	10,310	10,088	5,900			
コマーシャル	邦貨(百万円)	2,074	1,943	2,580	310	64	500
国内					10.1%	9.3%	7.0%
コマーシャル		1,129	1,341	1,070	114	124	75
遊技場向機器					△0.5%	△12.3%	△5.2%
		4,031	3,348	3,300	△19	△412	△170
調整額		—	—	—	△918	△895	△1,005
連結		14,995	15,585	14,500	6.4%	6.4%	4.8%
					963	996	700
海外売上高	外貨(千米ドル)	46,867	57,731	23,945	(注)表中の「調整額」は、各セグメントに配分していない全社費用です。		
	外貨(千ユーロ)	37,464	35,433	16,895			
	邦貨(百万円)	9,835	10,896	10,130			

「グローバルゲーミング」及び「国内コマーシャル」が前年同期間比で増収・増益。特に、「グローバルゲーミング」の収益性の良化が、大きく貢献している。「遊技場向機器」における収益性の改善の取り組みの成果も発現し始めているが、棚卸資産の評価額の切り下げにより、損失計上。「海外コマーシャル」は開発費負担の増加により、収益性が低下している。

各セグメントの主な製品は、NO. 35, 36ご参照

2019年3月期 2Q累計実績

日本金銭機械(6418)

6

セグメント別の業績を表示しております。

「グローバルゲーミング」セグメントと「国内コマーシャル」セグメントが前年同期間比で増収となりましたが、「遊技場向機器」セグメントでは棚卸資産の評価額の切り下げの影響により、損失計上となりました。

区分		2018/3 2Q累計実績	2019/3 2Q累計実績	2019/3 2Q累計計画	比較増減					
					前年同期間比		計画比			
北米・中南米	外貨(千米\$)	23,345	31,423	25,900	+34.6%	+8,078	+21.3%	+5,523		
	邦貨(百万円)	2,618	3,410	2,775		+792		+635		
アジア・ パシフィック	外貨(千米\$)	2,896	2,467	3,040	△14.8%	△429	△18.8%	△573		
	邦貨(百万円)	325	268	325		△57		△57		
欧州・アフリカ・ 中近東	外貨(千€)	23,144	21,790	20,075	△5.9%	△1,354	+8.5%	+1,715		
	邦貨(百万円)	2,829	2,848	2,650		+19		+198		
プリンター	外貨(千米\$)	13,369	18,086	12,150	+35.3%	+4,717	+48.9%	+5,936		
	外貨(千€)	4,010	3,555	3,700	△11.3%	△455	△3.9%	△145		
	邦貨(百万円)	1,989	2,427	1,800		+438		+627		
計	売上高(百万円)	7,760	8,953	7,550	+15.4%	+1,192	+18.6%	+1,403		
	営業利益(%)	19.0%	1,477	23.6%	2,114	17.2%	1,300	+4.6pt	+637	+6.4pt
平均為替レート	米ドル	112.13円	108.52円	107.00円		△3.61円		+1.52円		
	ユーロ	122.25円	130.70円	132.00円		+8.45円		△1.30円		

(注)前年同期間比、計画比欄の増減率は'現地通貨ベース'

北米地域では、新設案件、既設カジノホールのリニューアル工事を中心に設備投資意欲が旺盛で、紙幣識別機ユニットやプリンター等の需要が増加。
 欧州地域では、ドイツにおける本年11月から実施されるゲーム機の仕様変更に伴う買替需要があり、セグメント合計では好調な推移となり、前年同期間比で大幅な増収・増益となる。

業績概要(プリンター事業)

※ ゲーミング+コマーシャル合計



単位:百万円

	2018/3月期 2Q実績		2019/3月期 2Q計画		2019/3月期 2Q実績	
	合計	プリンター	合計	プリンター	合計	プリンター
売上高	14,995	2,090	14,500	1,870	15,585	2,453
売上総利益	39.4%	52.8%	38.8%	51.9%	37.8%	54.4%
	5,905	1,103	5,630	970	5,889	1,334

プリンター事業は、北米地域での案件増加により、前年同期間比で大幅な‘増収増益’となり、収益面での貢献大

プリンター事業 業績推移

	2015/3	2016/3 通期		2017/3 通期			2018/3 通期			19/3	累計	
	通期	上半期	下半期	通期	上半期	下半期	通期	上半期	下半期	通期		上半期
外貨(千米\$)	11,741	18,506	19,981	38,487	15,872	18,028	33,900	14,269	13,991	28,260	18,326	
外貨(千€)					4,415	3,419	7,834	4,010	3,921	7,931	3,555	
売上高	1,343	2,230	2,428	4,658	2,323	2,331	4,654	2,090	2,084	4,174	2,453	17,282
売上総利益	49.8%	50.8%	49.7%	50.2%	50.3%	52.7%	51.5%	52.8%	51.8%	52.3%	54.4%	51.6%
	669	1,132	1,207	2,339	1,168	1,228	2,396	1,103	1,080	2,183	1,334	8,921

(業績の取り込み時期) : 2014/9~

2019年3月期 2Q累計実績

日本金銭機械(6418)

8

「プリンター事業」は北米地域における案件増加により、前年同期間比で大幅な増収増益となり、収益面で大いに貢献しております。

下段には、当事業の買収後の損益推移を示しております。

当製品の販売だけで大きな成果が挙げられておりますが、当社の紙幣識別機とのセット販売という相乗効果も享受できております。

区分		2018/3 2Q累計実績	2019/3 2Q累計実績	2019/3 2Q累計計画	比較増減	
					前年同期間比	計画比
北米・中南米	外貨(千米\$)	3,850	4,322	3,800	+12.3% +472	+13.7% +522
	邦貨(百万円)	431	469	410	+38	+59
アジア・ パシフィック	外貨(千米\$)	2,507	1,193	1,500	△52.4% △1,314	△20.5% △307
	邦貨(百万円)	281	129	160	△152	△31
欧州・アフリカ・ 中近東	外貨(千€)	10,310	10,088	14,700	△2.2% △222	△31.4% △4,612
	邦貨(百万円)	1,260	1,318	1,940	+58	△622
プリンター	外貨(千米\$)	900	240	650	△73.4% △660	△63.1% △410
	邦貨(百万円)	101	26	70	△75	△44
計	売上高(百万円)	2,074	1,943	2,580	△6.3% △131	△24.7% △637
	営業利益(%)	14.9% 310	3.3% 64	19.4% 500	△11.6pt △245	△16.1pt △436
平均為替レート	米ドル	112.13円	108.52円	107.00円	△3.61円	+1.52円
	ユーロ	122.25円	130.70円	132.00円	+8.45円	△1.30円

(注)前年同期間比、計画比欄の増減率は、'現地通貨ベース'

欧州地域における紙幣識別機ユニットの販売は増加しましたが、アジア地域における販売が低調に推移し、セグメント合計では前年同期間比で減収となりました。

単位:百万円

	2018/3 2Q累計実績	2019/3 2Q累計実績	2019/3 2Q累計計画	比較増減	
				前年同期間比	計画比
売上高	1,129	1,341	1,070	+18.8% +211	+25.3% +271
営業利益	10.1% 114	9.3% 124	7.0% 75	Δ 0.8pt + 9	+ 2.3pt + 49

セルフガソリンスタンド精算機向、公営競技場向に加えて、当上半期はホテルのチェックイン精算機の需要が増加し、前年同期間比で増収となりました。



日本を訪れる外国人旅行者の急激な増加や2020年東京オリンピックをにらんで、大小さまざまなホテルの建築ラッシュが都内を中心に進んでいる。

2019年3月期 2Q累計実績

日本金銭機械(6418)

10

単位:百万円

区 分	2018/3 2Q累計実績	2019/3 2Q累計実績	2019/3 2Q累計計画	比 較 増 減	
				前年同期間比	計画比
遊技場向	3,746	3,348	3,300	$\Delta 10.6\%$ $\Delta 398$	$+ 1.5\%$ $+ 48$
アミューズ メント	285	—	—	$\Delta 285$	—
売上高	4,031	3,348	3,300	$\Delta 16.9\%$ $\Delta 683$	$+ 1.5\%$ $+ 48$
営業利益	$\Delta 0.5\%$ $\Delta 19$	$\Delta 12.3\%$ $\Delta 412$	$\Delta 5.2\%$ $\Delta 170$	$\Delta 11.8pt$ $\Delta 393$	$\Delta 7.1pt$ $\Delta 242$

(注)・平成30年2月末をもって、「アミューズメント事業(ゲームセンター2店舗を展開)」から撤退いたしました。

遊技場業界における規制強化の影響を受け、設備投資に対する慎重な姿勢が継続しており、メダル自動補給システムなどの主力製品の販売が低調な推移となりました。更に、前期において2月末に撤退いたしましたアミューズメント事業での減収も影響しております。

収益面では、当セグメントにおいて収益を確保できる体制への構造改革を進めており、固定費の削減等による改善効果が発現し始めておりますが、棚卸資産の一部について評価額の切り下げを行ったことで、損失計上となりました。

2019年3月期 通期業績予想

ポイント

通期の業績予想については、10月15日予想をほぼ変更せず。

- 下半期には、欧州ゲーミング事業や遊技場向機器事業において、下記のような要因を想定しているため。
- 欧州ゲーミング市場では、本年11月からドイツで実施されたゲーム機に関する規制強化となる基準改定に対応するため、近年続いておりました好調な需要も落ち着いてくる。
- 国内の遊技場向機器事業は、停滞する設備投資の動向に大きな変化は見られず、厳しい経営環境が続くものと想定しておりますが、前期に実施した事業再構築プランが一定の効果を挙げつつあり、今期中に構造改革の目途をつける。

進行年度の通期業績予想についてご説明いたします。

北米ゲーミング市場は引き続き堅調な推移と思われ、国内外の商業事業につきましても、キャッシュレス化の動きはあるものの、各国市場に特有のキャッシュ・ニーズを反映したビジネスチャンスを見込んでおります。

一方、欧州ゲーミング市場では、本年11月からドイツで実施されたゲーム機に関する規制強化となる基準改定により、近年続いておりました好調な需要も落ち着いてくると想定しております。

また、遊技場向機器市場においても、停滞するパチンコホールの設備投資の動向に大きな変化は見られず、厳しい経営環境が続くものと想定しておりますが、前期から実施している事業再構築を今期中に構造改革の目途をつけたいと考えております。

以上のことから、通期の業績につきましては、10月15日付にて発表いたしました業績予想数値から、大きな変更はございません。

2019年3月期 通期業績予想

単位:百万円



	2018/3		2019/3		通期比較		
	2Q累計実績	通期実績	2Q累計実績	通期予想	率	増減額	
売上高	14,995	29,860	15,585	30,000	+ 0.5%	+ 140	
グローバルゲーミング	7,760	15,367	8,953	16,750	+ 9.0%	+1,383	
(内数)プリンター事業	(1,989)	(3,998)	(2,427)	(4,400)	(+10.1%)	(+402)	
海外コマース	2,074	3,797	1,943	3,650	△ 3.9%	△ 147	
(内数)プリンター事業	(101)	(176)	(26)	(60)	(△65.9%)	(△116)	
国内コマース	1,129	2,664	1,341	2,500	△ 6.2%	△ 164	
遊技場向機器	4,031	8,031	3,348	7,100	△11.6%	△ 931	
営業利益	6.4%	4.6%	6.4%	5.2%	+13.0%	+0.6pt	
	963	1,372	996	1,550		+178	
経常利益	7.1%	3.9%	9.3%	6.0%	+56.2%	+2.1pt	
	1,064	1,152	1,450	1,800		+648	
純利益	3.0%	3.1%	6.7%	3.5%	+13.6%	+0.4pt	
	453	924	1,047	1,050		+126	
平均為替レート	米ドル	112.13円	112.05円	108.52円	110.00円		△ 2.05円
	ユーロ	122.25円	127.24円	130.70円	131.00円		+ 3.76円

通期の業績予想につきましては、10月15日に公表しました数値から大きく変更して
おりません。尚、今後の需要動向による業績への影響などを確認したうえで、
適時開示が必要な場合には、速やかに公表いたします。

2019年3月期 2Q累計実績

日本金銭機械(6418)

13

2019年3月期の業績予想について、ご説明いたします。

売上高は、前期比0.5%増、1億40百万円増収の300億円、当期純利益は、前期比1億26百万円増益の10億50百万円と、10月15日付にて発表いたしました業績予想数値から、大きな変更はございません。

尚、今後の需要動向などにより業績への影響が生じたときには、内容を精査したうえで、適時開示が必要な場合には速やかに公表してまいります。

2019年3月期 セグメント別業績予想



単位:百万円

		売上高			営業利益(率)		
		2018/3 実績	2019/3 予想	2019/3 期初計画	2018/3 実績	2019/3 予想	2019/3 期初計画
グローバル ゲーミング	外貨(千米ドル)	78,569	96,430	80,435	18.9%	18.5%	15.5%
	外貨(千ユーロ)	51,589	46,960	43,900			
	邦貨(百万円)	15,367	16,750	14,400			
海外 コマーシャル	外貨(千米ドル)	13,894	10,950	13,085	16.5%	2.7%	13.2%
	外貨(千ユーロ)	17,611	18,700	23,860			
	邦貨(百万円)	3,797	3,650	4,550			
国内 コマーシャル		2,664	2,500	2,500	10.5%	8.0%	8.8%
遊技場向機器		8,031	7,100	6,550	△6.1%	0.7%	2.1%
調整額		—	—	—	△489	50	140
連結		29,860	30,000	28,000	△1,956	△1,900	△1,995
海外売上高	外貨(千米ドル)	92,463	107,380	93,520	4.6%	5.2%	4.3%
	外貨(千ユーロ)	69,200	65,660	67,760			
	邦貨(百万円)	19,164	20,400	18,950			

(注)表中の「調整額」は、各セグメントに配分していない全社費用です。

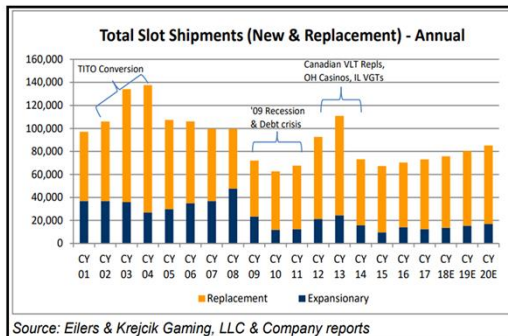
2019年3月期 2Q累計実績

日本金銭機械(6418)

14

セグメント別の通期の業績予想を表示しております。

グローバルゲーミング



《米国》

左記のような民間の調査会社のデータによると、米国でのスロットマシンの販売は、新規オープンや拡張に加えて、入替も順調に推移し、次年度以降も安定的に推移する見通しとなっております。

しかし、主力製品のコモディティ化は進行しており、競合との価格競争、そして顧客からの値下げ要求は継続しております。

このような状況のなか、当社は識別機やプリンター製品だけでなく、ゲーミングライセンスをキーとしてシステム製品やLEDモニターをまとめて、ワンストップで提供できるという競合他社にはない強みを活かして、システムを含めたビジネスモデルへの移行を目指してまいります。

- ・カジノトータルでのビジネスモデルの推進
 - ～ ディスプレイ商材、カジノ向システムビジネスへの取り組み ～
 - ⇒ ・ディスプレイ商材は、2018年度売上 4 M\$程度の見込み
 - ・‘FUZION’システムは2019年1月に初導入が決定

左記製品については、
NO. 37, 38 ご参照

グローバルゲーミング

《 欧州 》

ドイツAWP市場は、11月11日から規制が強化（投入可能金額や1回あたりの最大払い出し金額の切り下げ等）されたマシンのみでの運営がスタートいたしました。

近年続いておりました好調な需要も落ち着いてくるものと想定しております。

このような想定のもと、以前から取り組んでいる下記の項目に加えて、当地域においてもシステムビジネスを推進し、売上減を補っていく。

・未開拓市場への展開

⇒ 南アフリカのゲーミング市場参入に成功(マシン約4万台の市場で、5千台を当社製品に入替)

・プリンターの未導入市場への展開

⇒ イギリスに続いて、進行年度には、スペイン、ニュージーランドでも導入がスタートの見込

海外コマーシャル

・新製品投入による金融及び鉄道分野での拡販

⇒ 中国で2件、台湾で1件の鉄道券売機向に新製品ユニット(MRX)の導入が決定。

引き続き、グローバルでの導入に向けて注力していく。

国内コマース

- ・流通系チャージ機向や食券券売機向に続く、新規用途の開拓
⇒ ホテル・チェックイン向精算機の需要獲得（スライドNO.10にてご説明）
- ・釣銭機、バス精算機向、公営競技向精算機の入替需要の獲得
⇒ 釣銭機、公営競技場向精算機の入替スタート
- ・訪日外国人向製品（自動外貨両替機、外貨直接決済端末）の拡販
⇒ 外貨両替機については、弊社独自のアプリ開発と新しい販売スキームにより、新規ルートの開拓、拡販に取り組む。（2019年1月～）

〈市場変化への対応〉

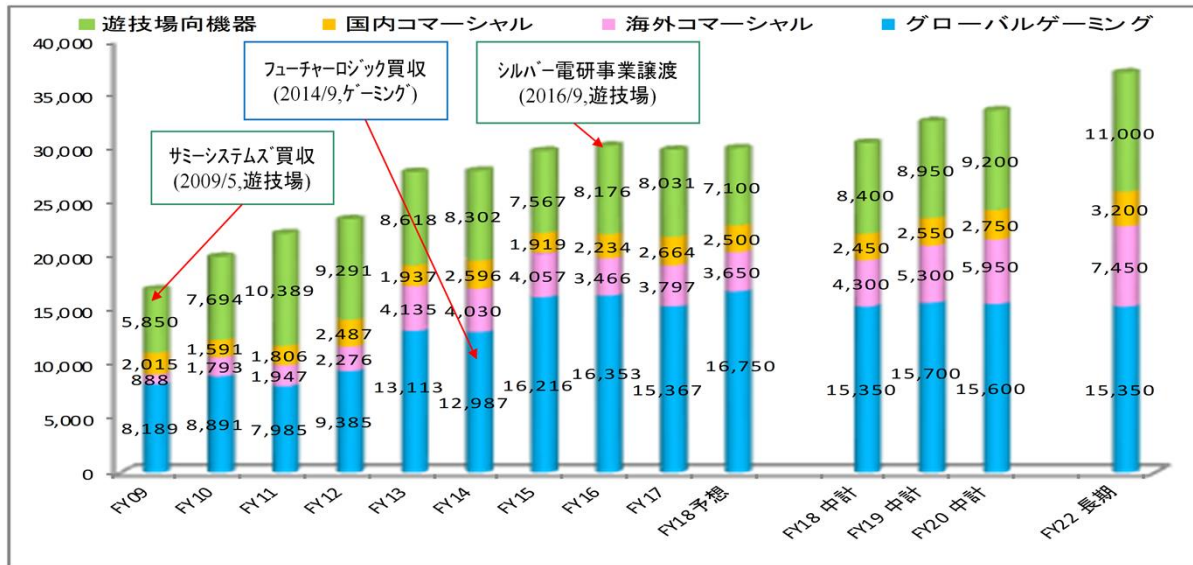
- ・キャッシュレス化への対応 ⇒ 経産省が産官学の連携組織として本年7月に設立した「キャッシュレス推進協議会」に参画

遊技場向機器

〈市場変化への対応〉

- ・遊技場市場の経営環境の低迷が続く 補足資料 NO.30, 31ご参照
⇒ 事業再構築の推進
拠点の統廃合、効率的な人員の再配置、固定費の削減

業績推移・中期計画 & 長期ビジョン



	FY09	FY10	FY11	FY12	FY13	FY14	FY15	FY16	FY17	FY18 予想	FY18 中計	FY19 中計	FY20 中計	FY22 長期
売上高	16,945	19,970	22,129	23,441	27,806	27,917	29,761	30,230	29,860	30,000	30,500	32,500	33,500	37,000
営業利益	△ 363	539	1,052	1,330	1,761	1,285	1,497	1,752	1,372	1,550	1,300	1,750	2,000	2,800
純利益	△ 940	666	778	1,432	1,418	1,486	357	1,012	924	1,050	800	1,150	1,300	1,700

2019年3月期 2Q累計実績

日本金銭機械(6418)

JCM-HK, CN

1987年(昭和62年) 製造子会社JCM-HKを設立
1995年(平成 7年) 深センに中国事務所開設
2010年(平成22年) 中国本土での生産拠点として、
JCM-CNを設立



海外売上高が半分以上を占めている当社グループにとって為替リスクの回避とともに、コストダウンの面においても、海外生産が大きな貢献をしてまいりましたが...

中国での賃金高騰
トランプ米大統領による対中国関税政策



「China+ α 」の展開として、フィリピンでの生産活動を進めてまいりましたが、
その取り組みのスピードを加速させる必要あり

長浜工場（滋賀県長浜市）

敷地面積 24千㎡

工場竣工 1991年(平成3年)

工場従業員 約80名(派遣、パート含)

生産とともに物流拠点としても機能を併せ持つ（右写真の左部分が物流施設）



年間工場生産高推移（百万円）

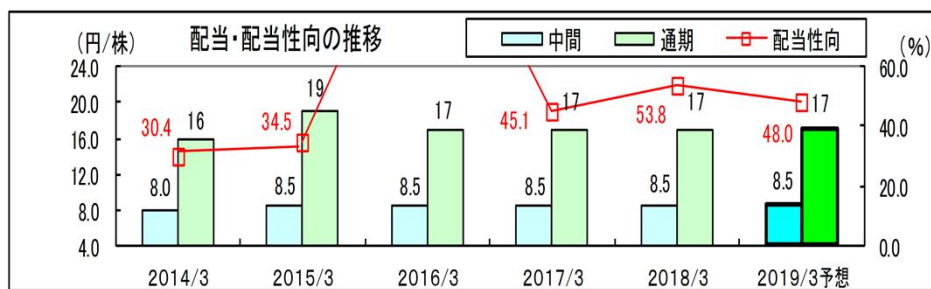
H26年3月期	H27年3月期	H28年3月期	H29年3月期	H30年3月期
5,970	6,409	5,516	5,418	5,758



事務棟屋上からの様子
(植木の向こう側の緑地も当社所有地)

国内カジノ構想に関しても、当社グループが長年にわたって構築してきた海外ゲーム機メーカーやカジノオペレーターとの強固なパートナーシップとともに、習得してきたノウハウを結集して、ビジネスチャンスを最大化できるように取り組んでまいります。

2019年3月期も、年間普通配当17円を予想



※2015/3には創立60周年の記念配当 2円を含む

1株当たり利益推移(円)	52.6	55.1	13.3	37.7	31.6	35.4
配当性向推移(%)	30.4	34.5	128.1	45.1	53.8	48.0
純資産配当率(%)	1.7	1.7	1.8	1.6	1.5	1.5

《業績連動型株主還元を継続》
 ・配当性向(連結) 30%以上 ・純資産配当率 2.0%以上 を目指す

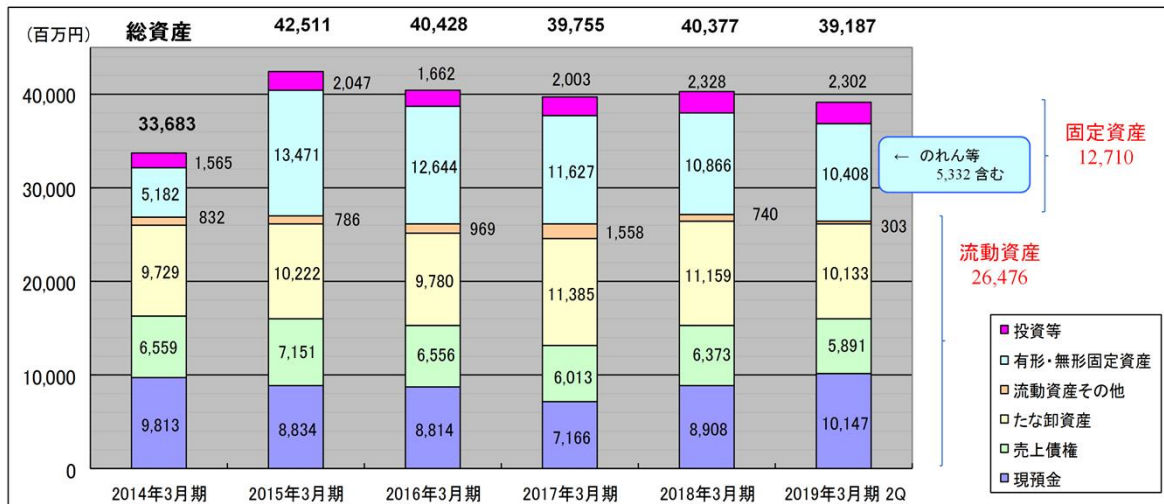
配当性向を30%以上とし、連結業績に連動した利益還元を行い、
 且つ安定的な配当の維持に引き続き努める。

2019年3月期の配当につきましては、中間期 8円50銭、年間での配当額は前期と同額の1株につき17円を予想しております。

・貸借対照表	..23,24
・キャッシュ・フロー	..25
・設備投資額、減価償却費、研究開発費の推移	..26
・為替影響	..27
・半期別業績推移（2016/3～19/3月期）	..28
・四半期別・セグメント別売上高推移 （2016/3～19/3月期）	..29
・遊技場市場関連情報	..30,31
・海外カジノ市場の状況	..32
・国内カジノ開業までの流れ	..33,34
・事業セグメントの概要	..35,36
・製品説明	..37,38

資産の部 : △11億89百万円 (前期末比)

流動資産 △ 705 : 現預金 +1,238、売上債権 △482、たな卸資産 △1,026
 固定資産 △ 484 : 固定資産 △457、投資その他 △26



決算期末日レート	2014年3月期	2015年3月期	2016年3月期	2017年3月期	2018年3月期	2019年3月期 2Q
米ドル	102.91	120.28	112.69	112.18	106.31	113.60
ユーロ	141.60	130.38	127.68	119.81	130.81	132.17

2019年3月期 2Q累計実績

日本金銭機械(6418)

2018年9月末の資産合計は、前期末と比較して、11億89百万円減少し、391億87百万円となりました。

主な増減の内容としては、

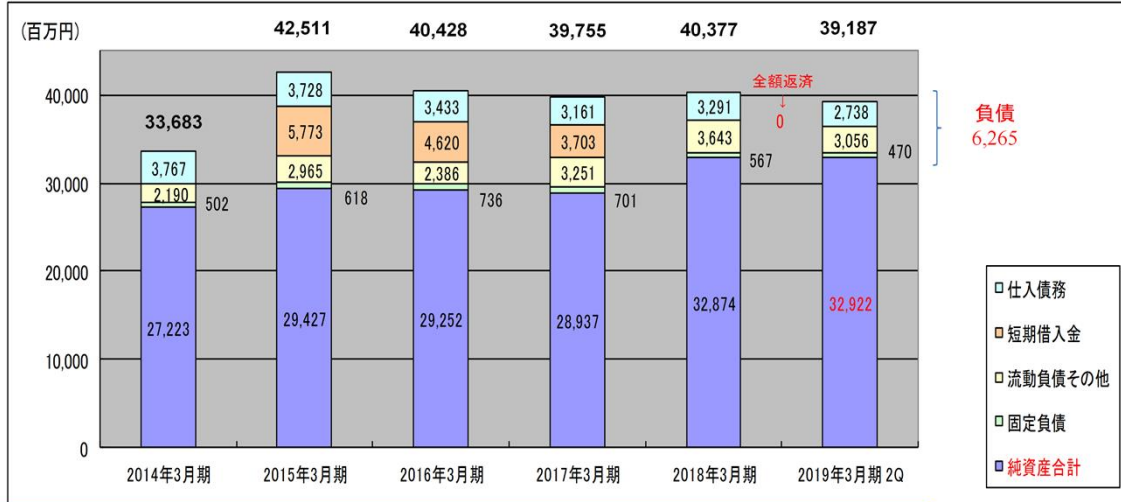
流動資産では、「現預金」が12億38百万円増加、「売上債権」が4億82百万円減少、「たな卸資産」が10億26百万円減少したことなどにより、7億5百万円減少の264億76百万円となりました。

また、固定資産では有形固定資産で14百万円の減少、無形固定資産では償却の進行などにより4億42百万円の減少したこと等により、4億84百万円減少の127億10百万円となりました。

負債：△12億38百万円（前期末比）

流動負債 △1,140：仕入債務 △553、未払法人税等 △160、事業構造改善引当金 △133

純資産：+48百万円：利益剰余金 +795、為替換算調整勘定 △663



自己資本比率(%) **80.8** **69.2** **72.3** **72.7** **81.4** **84.0**

1株当たり純資産(円) **1,009.07** **1,090.80** **1,084.29** **1,080.96** **1,108.57** **1,110.67**

2019年3月期 2Q累計実績

日本金銭機械(6418)

負債は、前期末と比較して12億37百万円減少して、62億65百万円となりました。

増減の主な内容としては、「仕入債務」が5億53百万円、「未払法人税等」が1億60百万円、「事業構造改善引当金」が1億33百万円それぞれ減少いたしました。

純資産は、在外子会社の時価評価による「為替換算調整勘定」が6億63百万円減少し、利益剰余金が7億95百万円増加したことにより、48百万円増加の329億22百万円となりました。

尚、自己資本比率は84.0%と前期末と比べて、2.6ポイント増加いたしました。

- ・営業CF : 税金等調整前純利益 1,464、償却費 540
- ・投資CF : 有形固定資産取得 △253
- ・財務CF : 配当金支払 △251

	'14/3月期	'15/3月期	'16/3月期	'17/3月期	'18/3月期	'19/3月期 2Q
営業活動によるCF	2,098	1,801	1,758	611	3,461	1,755
投資活動によるCF	△ 545	△ 6,991	△ 242	△ 293	△ 694	△ 380
財務活動によるCF	△ 626	5,181	△1,414	△1,688	△ 940	△ 277
現金及び同等物に係る換算差額	579	334	△ 121	△ 278	△ 84	27
現金及び同等物の増加額	1,506	325	△ 19	△ 1,647	1,741	1,125
現金及び同等物(2Q)期末残高	8,488	8,814	8,794	7,146	8,888	10,013
フリー・キャッシュ・フロー	1,553	△ 5,190	1,516	318	2,766	1,375

キャッシュ・フローの増減は、下記のとおりでございます。

◇営業活動CF +17億55百万円

- ・主な増減要因は、税金等調整前純利益 14億64百万円、
減価償却費(のれん含む) 5億40百万円、
運転資本(売上債権・仕入債務・在庫)の増減
7億1百万円
法人税の支払い △6億10百万円

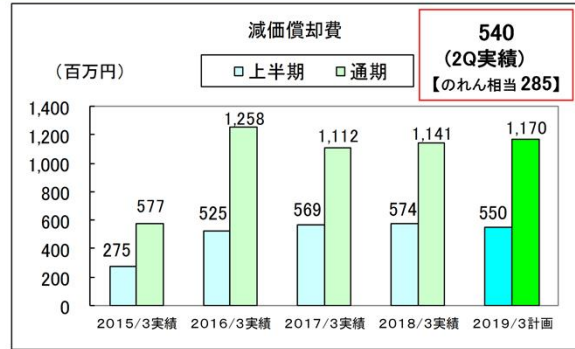
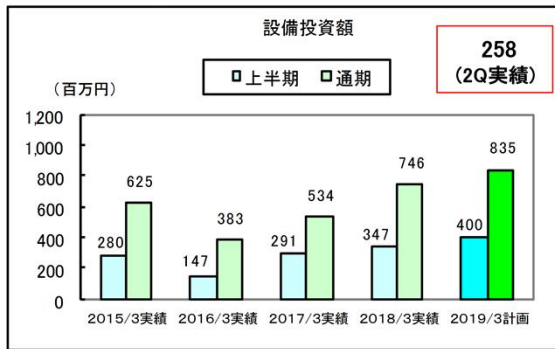
◇投資活動CF △3億80百万円

有形固定資産の取得 2億53百万円

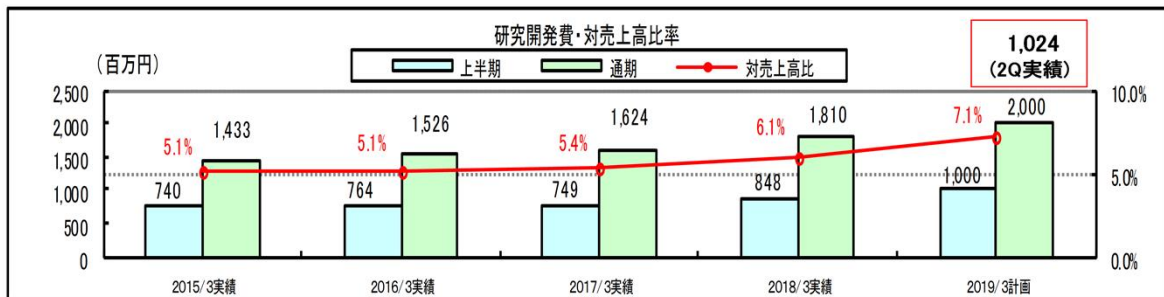
◇財務活動CF △2億77百万円

配当金支払 △2億51百万円

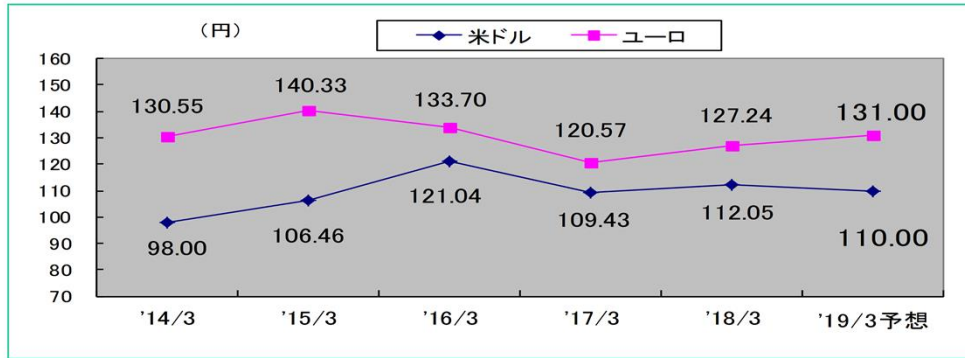
◇現金同等物の換算差額 +27百万円



のれん相当償却費(内数) ※ [] 内は上半期 【299】 575 【294】 587 【280】 560



設備投資額、減価償却費、研究開発費の推移と進行年度の予想を表示しております。



1円当たりの営業利益への影響額 (年間：百万円) ※円安が業績にプラスに

	'14/3	'15/3	'16/3	'17/3	'18/3	'19/3 予想
米ドル	9	18	11	21	23	19
ユーロ	6	7	6	5	9	6

	2018/3実績	2019/3予想	為替感応度 ~売上高~(百万円)
米ドル	112.05	110.00	107
ユーロ	127.24	131.00	65

	2018/3期末	2019/3 期末予想	為替感応度 ~営業外~(百万円)
米ドル	106.31	110.00	45
ユーロ	130.81	131.00	1

2019年3月期通期の期中平均レートは、
 期初計画段階では、米ドル 107円、ユーロ 132円 としておりましたが、
 予想では、米ドル 110円、ユーロ 131円 とみております。

	2016/3 実績			2017/3 実績			2018/3 実績			19/3実績
	上半期	下半期	通期	上半期	下半期	通期	上半期	下半期	通期	上半期
売上高	14,501	15,260	29,761	15,298	14,932	30,230	14,995	14,865	29,860	15,585
売上原価	8,621	9,387	18,008	9,338	8,952	18,290	9,090	9,294	18,384	9,696
売上総利益	40.5% 5,880	38.5% 5,873	39.5% 11,753	39.0% 5,959	40.0% 5,980	39.5% 11,940	39.4% 5,905	37.5% 5,571	38.4% 11,475	37.8% 5,889
販管費	5,261	4,994	10,255	4,812	5,375	10,187	4,941	5,162	10,103	4,893
営業利益	4.3% 618	5.8% 879	5.0% 1,497	7.5% 1,147	4.1% 605	5.8% 1,752	6.4% 963	2.8% 409	4.6% 1,372	6.4% 996
営業外損益	86	△ 442	△ 355	△ 581	362	△ 219	100	△ 321	△ 220	454
経常利益	4.9% 705	2.9% 437	3.8% 1,142	3.7% 566	6.5% 967	5.1% 1,533	7.1% 1,064	0.6% 88	3.9% 1,152	9.3% 1,450
特別損益	△ 1	△ 81	△ 81	311	10	320	△ 223	1,594	1,370	13
税引前利益	704	356	1,060	877	977	1,854	840	1,682	2,522	1,464
法人税等	239	463	702	473	368	842	386	1,211	1,597	417
純利益	3.2% 464	-0.7% △ 107	1.2% 357	2.6% 403	4.1% 609	3.3% 1,012	3.0% 453	3.2% 471	3.1% 924	6.7% 1,047
平均為替レート										
米ドル	120.50円	121.58円	121.04円	111.79円	107.07円	109.43円	112.13円	111.97円	112.05円	108.52円
ユーロ	133.85円	133.55円	133.70円	124.24円	116.90円	120.57円	122.25円	132.23円	127.24円	130.70円

2019年3月期 2Q累計実績

日本金銭機械(6418)

28

過去3年間の業績を上半期と下半期に分けて、あわせて進行年度の上半期の業績を表示しております。

単位:百万円

	2016/3 実績					2017/3 実績					2018/3実績					19/3実績	
	1Q	2Q	3Q	4Q	通期	1Q	2Q	3Q	4Q	通期	1Q	2Q	3Q	4Q	通期	1Q	2Q
売上高	7,148	7,353	7,903	7,357	29,761	7,398	7,900	7,738	7,194	30,230	7,140	7,855	7,640	7,225	29,860	7,713	7,872
グローバルゲーミング	3,775	4,021	4,156	4,266	16,216	4,124	4,415	3,903	3,911	16,353	3,722	4,038	3,570	4,036	15,367	4,341	4,611
(内数)プリンター	(1,035)	(1,195)	(1,193)	(1,236)	(4,658)	(1,097)	(1,044)	(1,114)	(1,147)	(4,402)	(935)	(1,054)	(854)	(1,155)	(3,998)	(1,141)	(1,286)
海外コマース	1,061	964	1,036	997	4,057	876	1,008	810	771	3,466	928	1,146	846	876	3,797	884	1,058
(内数)プリンター	-	-	-	-	-	-	(182)	(69)	(-)	(252)	(15)	(86)	(51)	(24)	(176)	(11)	(15)
国内コマース	472	471	416	560	1,919	511	467	379	877	2,234	485	644	753	782	2,664	681	660
遊技場向機器	1,839	1,897	2,295	1,536	7,567	1,885	2,010	2,647	1,634	8,176	2,004	2,027	2,469	1,531	8,031	1,806	1,541
(内数)譲受事業	-	-	-	-	-	-	(60)	(303)	(261)	(624)	(368)	(362)	(282)	(279)	(1,291)		

(業績の取り込み時期) 譲受事業(遊技場向機器): 2016/9~

過去3年間と進行年度の上半期のセグメント別売上高を四半期ごとに表示しております。

・遊技場関連統計

平成29年度の市場規模は20兆円の大台割れ、また参加人口は2年連続で過去最低値を更新。尚、市場規模に関しては、昨年発表の平成28年度数値が21兆6,260億円から、20兆4,180億円に修正された。また、ホール数は22年連続の減少と縮小傾向は止まらない。

	市場規模 (億円)	参加人口 (万人)	ホール数 増減率 (店)	パチンコ設置台数 (万台)	パチスロ設置台数 (万台)	合計 (万台)	1店舗当たり平均 遊技設置台数 (台)
平成26年度	245,040	1,150	-2.2% 11,627	64.3% 295	35.7% 164	459	395.4
平成27年度	232,290	1,070	-2.7% 11,310	63.7% 291	36.3% 166	458	405.0
平成28年度	204,180	940	-2.9% 10,986	62.6% 283	37.4% 169	452	411.9
平成29年度	195,400	900	-3.5% 10,596	62.0% 274	38.0% 168	443	418.7

(注)・市場規模、参加人口は、『レジャー白書2018』より。

・ホール数、パチンコ・パチスロ設置台数等は年末時点の数値、『警察庁保安課まとめ』より

・遊技場業界の動向

～各項目のピーク時の数値と2017年度の比較～

娯楽の多様化等による遊技人口の減少や規制強化といった影響もあり、遊技場業界は縮小傾向にある。

◇遊技人口

H6年度 2,930万人

↓ △69.3%

H29年度 900万人

◇パチンコホール数

H7年度 18,244店

↓ △41.9%

H29年度 10,596店

◇市場規模

H17年度 34.8兆円

↓ △44.0%

H29年度 19.5兆円

・遊技機 販売台数

『警察庁保安課まとめ』より

(万台)

	H21年度	H22年度	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度
パチンコ	333	290	260	249	206	201	188	156	139
パチスロ	76	97	125	132	139	123	96	88	65

パチンコ、パチスロ合計販売台数はH21年度に409万台であったが、H29年度はその半数程度にまで落ち込んだ(尚、ピークはH17年度の583万台)。特に、パチンコ機は減少の一途。

パチスロ機はH25年度にかけて増加傾向にあったが、新規機への移行等もあり、減少傾向にある。

・当市場に関連すると思われる法案や業界の動向

◇法案

- ・ギャンブル等依存症対策法案が成立（7月6日）
当法案では、カジノだけでなく、競馬や競輪などの公営ギャンブルに加え、パチンコ店も対象になる。公営競技の施行者やパチンコ事業者も、カジノ事業者と同様に、国や自治体の依存症対策に協力し、依存症予防に努める義務を負うことになった。
- ・改正健康増進法が成立（7月18日）
当法案の成立により、パチンコホールは全国一律で原則屋内禁煙(喫煙専用室設置可)となる。2020年4月1日に施行される。
- ・カジノを含む統合型リゾート(IR)整備法が成立（7月20日）

◇業界動向

- ・パチスロ高射幸機 設置規制
設置台数 ~2019年1月末 15%以下、~2020年1月末 5%以下、~2021年1月末 0%
- ・機器入替自粛が想定される期間
 - ・2019年 4月(天皇陛下退位)、5~6月(G20開催,大阪)、9~11月(ラグビーW杯)
 - ・2020年 7~9月(東京オリ・パラ)
- ・消費税率10%（2019年10月~）

・パチンコホール売上高 前年度(同期間)比増減

平成30年8月度実績は前年同月比プラス(+0.2%)となり、対前年同月比マイナスは'52ヶ月連続'でようやくストップ。

平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度 1~8月累計
△ 6.6%	△ 6.4%	△ 11.3%	△ 4.2%	△ 4.7%

『経済産業省 特定サービス産業動態統計調査』より

◇マカオ

2018年度の10月までの累計カジノ売上は前年同期比14.3%増の2,513.83億パタカ（約3兆5,194億円）となった。単月で見ると、昨年8月度以降、27ヶ月連続で前年同月比プラスで推移している。

要因としては、中国政府の反腐敗運動の影響がおおむね一巡した点や新規にオープンした大型IRの影響が挙げられます。

マカオカジノ売上推移〔1～10月累計〕（上段：億パタカ、下段：前年同期比 増減率）

	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
年間	3,041.39	3,606.49	3,515.21	2,308.40	2,232.10	2,657.43	2,513.83
1～10月	2,510.11	2,971.09	3,039.67	1,960.74	1,846.07	2,200.10	2,513.83
増減率	+13.5%	+18.4%	+2.3%	△35.5%	△5.8%	+19.2%	+14.3%

《 港珠澳大橋が開通 》

香港-珠海-マカオを結ぶ「港珠澳大橋（こうじゅおうおおはし）」が10月24日に開通した。2009年12月に着工し、開通まで約9年もの歳月を要したが、総延長55kmに及ぶ、海を越える橋としては世界最長の橋の完成により、これまで約4時間を要していた珠海と香港国際空港間が約45分に短縮される。

これまで香港とマカオ間の移動手段は約1時間のフェリーの利用が基本であったが、時間短縮とともに、開通により陸路で24時間行き来が可能となり、香港からマカオの各カジノ行きの運行も始まったようで、カジノにとってはプラス効果が期待される。



カジノを含む統合型リゾート(IR)整備法が7月20日に成立し、同月27日公布された。今後の開業に至るプロセスとしては、下記のように想定されている。

「想定されるスケジュール」については、次項ご参照

まず、来年7月に100人規模の『カジノ管理委員会』が設置される予定であり、その後、国による「基本方針」の策定・公表が、2019年内に実施される見込みである。

その後、国の基本方針を受けて、自治体が早ければ2020年に「実施方針」を策定・公表し、自治体がIR事業者の公募・選定を行う。

更に、自治体は地域における十分な合意形成を行ったうえで、IR事業者と共同で「区域整備計画」を策定し、国に申請する。

国土交通大臣は、公正かつ客観的な審査により、区域整備計画を認定する。

尚、認定区域整備計画の上限数は3ヶ所である。

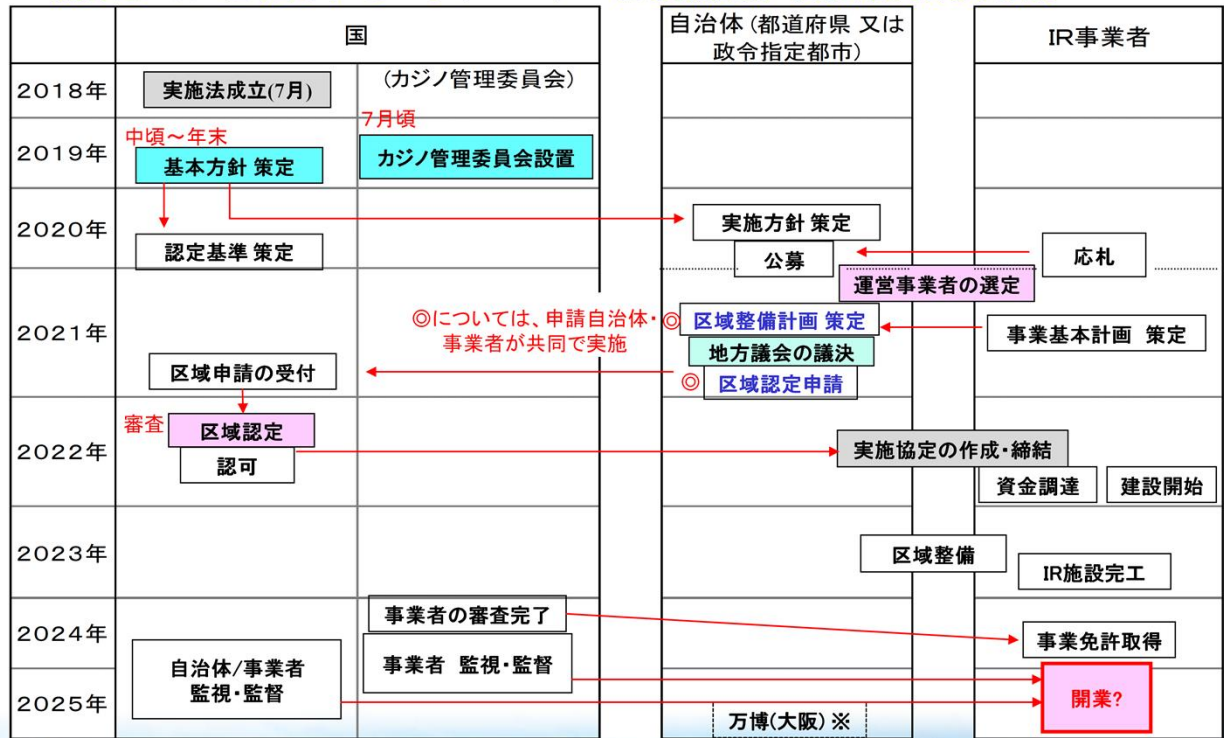
(IR区域認定数は当面3箇所とされ、7年後に見直しされることになったが、逆に言うと7年間は新設されない。)

国による「区域認定」を受けたのち、自治体とIR事業者が「実施協定」を作成・締結する。

その後、IR事業者は、カジノ管理委員会に事業免許を申請し、取得しなければならない。カジノ管理委員会は、徹底した背面調査を含めた厳格な免許審査を行ったうえで、カジノ免許を付与する。

そして、施設完成後、カジノ管理委員会による完成検査を受けて、晴れて開業できることとなるが、開業は早くても2025年前後になるものと予想される。

開業までに想定されるスケジュール (IR実施法案・与党合意内容より作成)



※2018.11.23に決定

グローバルゲーミング

主な納入先：
スロットマシンメーカー、カジノホール

ゲーミング向
プリンター



紙幣識別機



キオスク/精算機

海外・国内コマース



駅



パーキング



ATM



バス



完成品メーカーへの
ユニットの販売



公営競技場



キオスク/精算機



納金機



セルフレジ



ガリンスタンド

遊技場向機器

主な納入先：
パチンコホール



メダル自動補給回収
システム

紙幣搬送器



玉・メダル管機



据置景品払出機

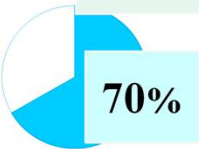


景品管理POS

グローバルゲーミング

競合企業

- Transact (USA)
- Nanoptix (CAN)



紙幣識別機

(世界市場)

60%

競合企業

- Crane payment innovations (MEI, Cash Code, Money Control :(USA))
- Innovative Technology (UK)

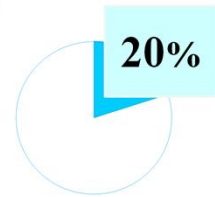
国内コマース



遊技場向機器



メダル自動補給回収システム



競合企業

- ㈱オーイズミ(6428)
- ㈱ジェッター(非上場)

各製品のシェアは、弊社推定値

日本金銭機械(6418)

◇大型LEDディスプレイ (Pixel Pro)



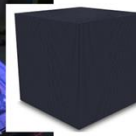
ブース内でゲームイベントを開催し、その映像を投影して、当社製品の画質の良さをアピール (G2E2017)



ブースの壁面に、'滝'の映像を投影



キュービックタイプの製品を積み合わせることで、いろいろな形状をつくり、そこに映像を投影することも提案



平面タイプ、キュービックタイプ以外に、曲線タイプの3タイプをラインナップ

日本金銭機械株式会社 (日本語)

<http://www.jcm-hq.co.jp>

JCM Global(English)

<http://jcmglobal.com/>

過去の決算説明会資料は、ホームページ(日本語)でもご覧いただけます。

「株主・投資家の皆さまへ」⇒「IRイベント」⇒「IR説明会」

お問合せ先 : 経営企画部 広報・IRグループ 仲谷 03-5962-3730(代)

この資料に掲載されている業績見通し、その他今後の予測・戦略等に関わる情報は、本資料の作成時点において、当社が合理的に入手可能な情報に基づき、通常予測し得る範囲内で為した判断に基づくものです。

しかしながら現実には、通常予測し得ないような特別事情の発生または通常予測し得ないような結果の発生等により、本資料記載の業績見通しとは異なる結果を生じ得るリスクを含んでおります。当社といたしましては、投資家の皆様にとって重要と考えられるような情報について、積極的な開示に努めてまいります。本資料記載の業績見通しのみにより全面的に依拠してご判断されることはくれぐれもお控えになられるようお願いいたします。

なお、いかなる目的であれ、当資料を無断で複製、または転送等をおこなわれぬようお願いいたします。